

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

# COMPASS

第 121 号 2017.6.24(土)発行

関西外国語大学  
教職教育センター

SCET

## 教育実習のお土産を大切に

英語キャリア学部 教授 馬場 勝

本学から車で 15 分ほど走ったところに大阪府営の山田池公園があります。ここの花しょうぶが見頃だと聞いたので、先日、初めて行ってきました。約 140 種、10,000 株が植わっているとありましたが、紫やうすいピンク、白など色とりどりの花しょうぶが、本当に美しく咲き誇っていました。「わたしが一番でしょ」と主張しないで凛と咲いている姿が素敵でした。実は「あなたが一番です。」と拍手を贈られるのは、一年間大事にお世話をされてきた公園事務所の方々なのだろうと、私は感じました。山田池公園を取り囲む新緑も梅雨空に映え、柔らかい一時を過ごさせていただきました。

さて教育実習を終えられたみなさん、いかがでしたか。「朝早くから夜遅くまで、本当に大変だったけど、毎日が充実していました。」そんな感想を持たれた方が多かったのではないかと思います。

ところで、みなさんはいっぱいのお土産をもらって、教育実習を終えられましたか。寄せ書きや子どもたちからの作文をもらった方もいることでしょう。それらも思い出に残る大切なお土産です。しかし、それ以上に大事にしてほしいお土産があります。それは、何時間もかけて教材研究をして授業に臨んだけれど、思い通りにいかなかった経験や普段目立たない子どもと触れ合っただけで心が繋がった経験など、経験というお土産です。また、実習校の先生方の真摯な姿に直接触れ、教師のあるべき姿を実感した人もいることでしょう。今申した経験や実感などは、何ものにも替え難い教育実習から得たお土産です。

実はこのお土産は、教育実習を適当に行った人には感じられないものです。目の前の子どもたちのために授業づくりに精を出した人、子どもたちとの関係づくりに腐心した人にだけ与えられ、そして感じられるものなのです。それは、大輪の花しょうぶを愛でる来園者を見て、丹精込めて育てあげてよかったと感じられる公園事務所の方々と同じようにも思います。

さあみなさん、今回の教育実習でいただいた多くのお土産をいつまでも忘れず大切に、明日からのあなたの生活に活かしてください。

## 教育実習終了者より

教育実習に行っていた学生が続々と帰ってきています。教育実習は人生で一度しかできない貴重な機会です。学校現場で大学では学べないことを学び、生の子どもたちとの触れ合いで多くの経験ができ、また課題も見えたのではないかと思います。

下位年次生も貴重な教育実習の機会を最大限に活かすために先輩方の声を参考に英語力を磨いたり、日ごろの授業を大切にしっかりと準備にしてください。

教育実習から戻ってきた学生の声を紹介します。

**伊藤 優希 さん 外国語学部 英米語学科 4年生**

### 教育実習を終えて

箕面市立第三中学校での3週間の教育実習が終了しました。現在は無事終わることが出来た安心感と愛くるしい子どもたちと学校生活を過ごせない寂しさが入り混じっています。

周りの仲間に比べ少し早めに始まり、正直楽しさよりも不安を抱えながら始まった教育実習。最初の1週間は新しい空気に慣れるのが精一杯で、生徒と思うようにコミュニケーションが取れなかったり、なかなか自主的に動けなかったりと自分の情けなさに呆れていました。

しかし、2週目からは授業をさせていただくこともあり、何事にも恐れずに積極的に行動するように心がけました。自分を改めることによって、生徒たちも心を開いてくれ、授業も最初に比べると良い雰囲気で行うことが出来、本当に充実した3週間となりました。

1週目は授業見学に重きを置き、英語科だけではなく、色々な科目、先生の授業を見学させて頂きました。生徒への指示の出し方、授業の進め方など、先生によって1人ひとり個性があり、毎時間学ぶことが沢山ありました。2週目からは授業を行い、空き時間は教材研究も欠かしませんでした。私の学校は全教室にプロジェクターが設置されていたので、デジタル教材やパワーポイントの使用、またペアワークやリズムを使ったアクティビティ等で授業が単調にならないような工夫をしました。またALTとのTeam Teachingも経験することが出来ました。3週目は日に日に寂しさが増しながらも、研究授業に向け最後まで全力で突っ走りました。毎回の授業で反省点は沢山ありましたが、何よりも自分が楽しく授業を行えたことが、生徒たちにもきちんと伝わっていたのかなと思います。

この教育実習で教科指導や生徒指導にももちろん力を入れましたが、私が一番心がけたことは、子どもたち1人ひとりの毎日の様子や変化、少しの成長に気付く事です。最終日には1人ひとりに感謝の気持ちと生徒の良いところをメッセージカードに綴り、それぞれの目をし

っかり見て渡しました。生徒の素直な思いが詰まったメッセージボードも頂き、今はまだ中学1年生の子どもたちも、これから色々なことを経験し、社会を見て成長していくのだなと思うと、愛おしくて涙が止まりませんでした。

たった3週間、されど3週間。担当クラスで蹴り合いの喧嘩も起こり、他にもトラブル満載でしんどいこともありましたが、実際の学校現場に入らないと感じ取れないことを目一杯吸収出来て、ここでは全然書き尽くせないくらいの思いがあり、本当に幸せな3週間でした。3週間、私の1番の先生であった生徒たちをはじめ、教職員の方々から頂いた沢山の言葉を胸に、目前に迫る教員採用試験も乗り越えたいと思います。

**内海 拓人 さん 外国語学部 英米語学科 4年生**

私は、母校である滋賀県の天津高等学校で実習生として3週間に渡りお世話になりました。授業や授業外における教員の職務に関して、そして、生徒とのかかわり合いの中で、本当に学ぶべきことばかりでした。

初めの3日間は、可能な限り英語科の先生方の授業を観察させて頂きました。その10時間程の観察だけでも、1時間毎の授業がどれだけ入念に計画されているかが分かりました。これは生徒として受けているだけでは見えてこなかったことでした。私があるとき思ったのは、授業内での学習と宿題として課される学習をきちんとこなせば誰でも英語を習得できる、ということでした。しかし、4日目から自分で授業をさせて頂き、生徒の学力レベルの幅の広さに気付きました。同じ学年の1つのクラス内でも、一人一人の理解の進捗にかなりの差が見られました。私はその問題に対して発問の仕方やワークシートの作り方使い方等で工夫を凝らしましたがなかなか上手くいかず、クラス全体の理解を得ることの難しさを知りました。私のその様子や質問に対して、多くの先生方から教わったのは、くどいと感じるくらいまで伝えないとほとんどの生徒に伝わっていないということでした。その授業がレッスン全体のどの位置にあるのかを理解し、授業内活動の進行をどれだけ教師が握るか、どれだけ生徒に委ねるかのバランスを考えることもより良い授業に繋がるということを知りました。

2週目に入り、少し余裕が出てきてようやく先生方と生徒たちの様子に目を向けることが出来ました。授業中ははつらつとして見える先生方も職員室ではかなり疲れた様子で、毎日夜遅くまで残っておられる方も多く、教師の職務の多さや辛さが感じられました。生徒については、私との共通点を見つけて積極的に話しかけてくれる子に目がいきがちでしたが、こちらから話しかけるとしっかり話してくれる子が多く、たくさんの生徒と他愛もない話から部活動の話、進路の話など深く関わることができてとても嬉しく思います。

この3週間で私のこれからの間違いなく役立つであろうことを多く学びました。しかし、その中でも一番の財産だったと思うのは、忙しくてしんどい中でも、授業内外で生徒とかが

わり、触れ合う中で嬉しく、楽しく、頑張れたことです。私は教育実習を通して得たこの気持ちをずっと感じられるようにこれから先も教師を目指し続けられると思います。多くの生徒とかかわり、その生徒たちの成長を支えたいと強く思わせてくれたこの3週間に感謝しています。

## 学生人材バンク活動報告！！

4月13日（木）に教職インターンシップ（KTAP）事前研修が近隣の山田小学校の麻生校長先生をお招きし行われました。教職インターンシップは、授業の補助に限らず学校活動全般の補助を行います。児童・生徒の弱点对策として行われている放課後学習の補助などもあります。このような教職インターンシップは、枚方市内だけではなく、様々な地域で行われています。



**平井 智美 さん 外国語学部 英米語学科 4年生**

### 教職インターンシップに参加して

今年の5月から週に一度、地元の中学校で活動をしています。主な活動内容は、英語の授業での先生の補助です。授業についていけない生徒がいたら手伝ってあげたり、質問に答えたり、スピーキング活動を一緒にするなど生徒の学習サポートをしています。この活動を始めたきっかけは、実習前に実際の教育現場に入り、中学生と接する機会を持ちたいと思ったからです。まだ一ヶ月ほどしか活動をしていませんが、大学の授業だけでは学べないようなことを毎回たくさん学ぶことができます。

この活動の良い点は、何よりもリアルな教育現場を体験し、中学生と触れ合えることです。「生徒はこんなことに疑問をもつんだな」「こういう活動をすれば生徒の興味・関心を引くことができるんだな」と客観的に授業を観察することで、想像もしていないような新しい発見があります。様々な個性を持った生徒たちと等しく接していくには難しさも感じますが、こうしてボランティアに参加することで、人との接し方というものはとても訓練させられます。

また活動をしていく中で強く実感させられるのは、英語以外の知識の必要性です。先生は

あらゆる分野、方面から英語の4技能をのばすためのアプローチをしています。教師が幅広い教養、知識を持つことで意味のある濃い英語教育を生徒たちに提供できると、授業を観察しながら気づかされました。

活動先の先生からも「実習前にこうして教育現場で学べることはすごくいい経験だ」と言ってもらえます。毎週行くたびに、自分の足りない部分が見えて落ち込むこともあります。同時に少しずつですが自分が成長しているのも実感します。今まで知らなかったことや気づかなかったことに気づいたり、失敗することは教師をみざすうえでとても価値のあることだと確信しています。そして実習時にはもっと大きく成長できるよう、一瞬一瞬を大事にしてこれからも日々学び続けたいです。

**西澤 里菜子 さん**      **大学院外国語研究科博士前期課程  
英語学専攻 1年**

## KTAP の魅力

私はKTAP（教職インターンシップ）を利用して、枚方市立の中学校に週1度「まなびングサポーター」としてお世話になっています。この活動は今年で2年目になります。この度、教職課程を履修するみなさんにまなびングサポーターの活動内容とKTAPの魅力をお伝えします。

まなびングサポーターとは枚方市内の小・中学校にて主に英語の授業での指導補助や、支援を必要とする児童・生徒に寄り添って授業中の個別サポートを行うインターンシップ生のことです。私は自分自身の授業の入っていない曜日の午前中に活動させていただいています。英語の授業では、生徒が問題を解いているときに文法や発音、表現の質問を受けることが多いです。あくまでサポーターなので、生徒の前に立って指導することはありません。現在は英語の授業補助が多いですが、数学や理科などの自分の専門でない教科の補助に入ることもあります。その場合は支援を必要とする生徒の横にいて先生の指示等を伝えるのがサポーターの役割です。

このKTAPの最大の魅力は、実際の教育現場を肌で感じるができるということと、サポーターという立場であることです。教職の授業で理論を学んだり、教員経験のある方からお話を聴く機会も多いと思いますが、実際の授業ではどうなのかは、見てみなければわかりません。私も大学で模擬授業を経験しましたが、その時は大学生が生徒役だったので授業進行に問題はありませんでした。しかし実際の中学生が相手だと、期待通りの反応が得られるか、時間配分がうまくできるかなど、配慮しなければいけない点が多く挙がりました。また忘れてはならないのが、生徒の英語の理解度や、英語に対する興味は様々であるということです。英語の教員をみざすみなさんは、もともと英語が好きな方が多いかと思うので、英語

を苦手とする生徒にもわかりやすく指導できるかなども、教員になるための課題として取り組むべきだと思います。50分の授業で、先生の指導の良いところを吸収すると同時に、生徒の反応や態度を客観的に見ることができるのは、サポーターという立場であるからだと思います。また、自分自身の得意なこと、苦手なことにも気づくことができました。最初に生徒の前で自己紹介をさせていただいた時に、緊張せずに大きな声でもでしたが、あとから「もっと生徒に興味をもってもらえることをいえばよかった」と考えが浮かんできました。小さなことですが、改善を積み重ねて自分の軸を築いていきたいと思います。

百聞は一見にしかずとはまさにこのことです。ぜひKTAPを利用してリアルな学校現場を体験することをおすすめします。

## シリーズ⑳ 「心の窓を少し開いて！」

### あるべき教師像について

短期大学部 教授 明石一朗

#### ① 豊かな人間性

単に子どもが好きということだけでは教師の仕事は務まらない。子どもたちは一人ひとり様々な生活背景を背負い、学び、そして他者と仲間としてつながるために学校に通う。その子どもたちの思いを大切に受け止め、共感し、ともに歩いていく教師が求められる。

子どもたちは、純粹で心優しい面を見せるかと思うと、手がかかり、実に残酷なこともある。それでも子どもが好きだと思え、無限の可能性を追求する教師であってほしい。

今年の春、新任採用された教員が、「勤務する学校は不登校や厳しい家庭環境で暮らす生徒も多く、課題もあるけれど、第一に生徒のことを考えて、どんなに大変でも絶対にじけず、あきらめない気持ちでやっています。折れない気持ちだけは誰にも負けません。」と語っている。

教育は、結果がすぐに出ないときのほうが多いが、児童生徒のためだと思って指導するのが教師の姿である。

#### ② 実践的な専門性

教科指導で言えば、中学校や高等学校の教科専門性も大きく、また、基礎基本を教える小学校の教師は大変重い責任を負っている。ひらがな・計算だけでなく「広い」「重い」という概念や、美しい言葉、まだ見ぬ地域、歴史という過去の出来事などを学び、道徳や特別活動で将来の生き方を考えるなど、学びの「第一歩」を小学校教育は担っている。

教師の指導は専門性に裏打ちされたものでなければならない。それは教科指導だけでなく生徒指導も教師としての専門性が要求される。ある新任教師は教育技術としては本当に未熟だったが、子どもたちのために授業が上手になりたいと常に教材研究に励み、2年目には、

子どもの心をひきつける生き活きとした授業づくりができるようになった。

### ③ 開かれた社会性

教師は、何よりも子どもとのコミュニケーションを大切に、保護者の思いも丁寧に把握しながら指導していくことが重要である。そのためには、子どもや保護者との信頼関係を築く社会性を身につけなければならない。

また、「開かれた学校づくり」に率先して取り組み、「総合的な学習の時間」等を通じて様々な取り組み（地域学習や職業体験、昔の遊び、読み聞かせ等）の中で保護者や地域の方々との豊かな出逢いやふれあいの場を持ち、地域や家庭と連携していかなければならない。

#### 編集後記——教職教育センターより——

「夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほかにうち光て行くもをかし。雨など降るもをかし。」

この一節を覚えている方もいるかもしれません。清少納言の枕草子の冒頭の一節です。先日、ふとこの一節を思い出し、夜、近所の川辺に行ってみたところ運よく、数匹の蛍が飛んでいるのを見ることが出来ました。何とも言えない落ち着いた気分になりました。

いままでは、蛍がどこで見られるのか人づてに聞かなければならなかったですが、今では多くのホームページで紹介されています。

皆さんも是非、一度、見てみてはどうでしょうか。